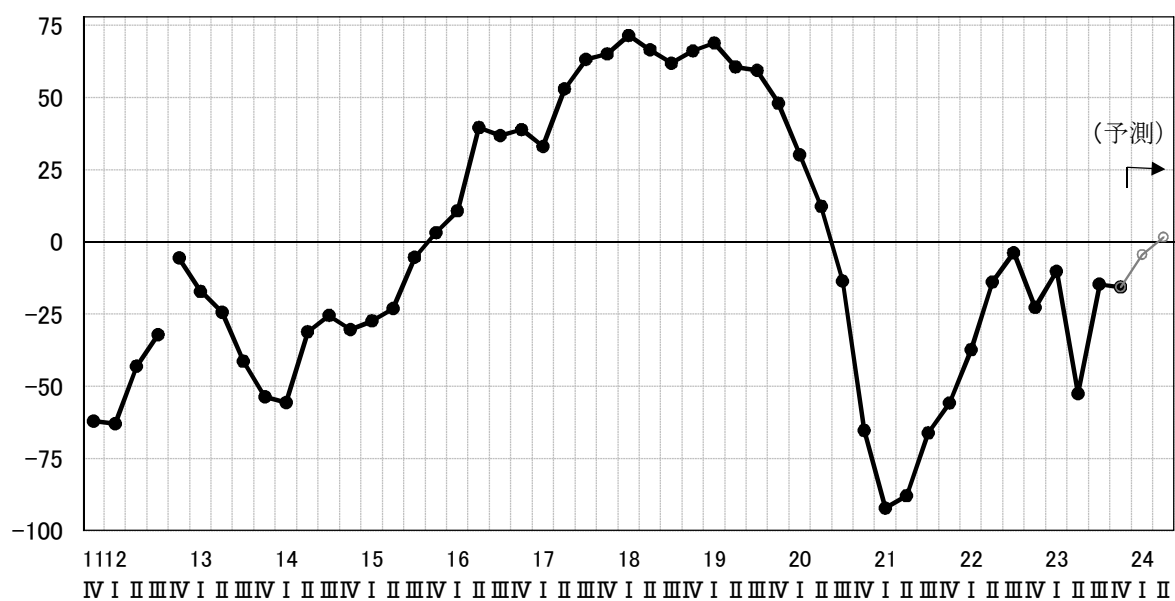


平成 23 年 12 月 13 日  
社団法人中部経済連合会

## 「中部圏の景況感の現状(10～12月期)と見通し(来年4～6月期まで)」 結果について

### 【今回のポイント】

#### 中部圏の景況判断



10～12月期の中部圏の景況判断（「良い」－「悪い」社数構成比）は、前回調査で急激に改善したのとは対照的に、僅かではあるが悪化（前期比1.0ポイント悪化して▲15.8）した。

項目別に見ると、雇用判断は前期に引き続き改善したが、業績判断、機械設備水準判断、設備投資計画判断が悪化した。

先行きについては、来期（1～3月期）は再び改善し、4～6月期にはプラスに転じるものと見られている。しかしながら、円高への懸念が引き続き強いことに加えて欧州経済の先行きに対する懸念が高まっている。特に、円高については、企業が想定するレート（79.2円）と企業が妥当と考えるレート（88.6円）で、大きなギャップが生じている。

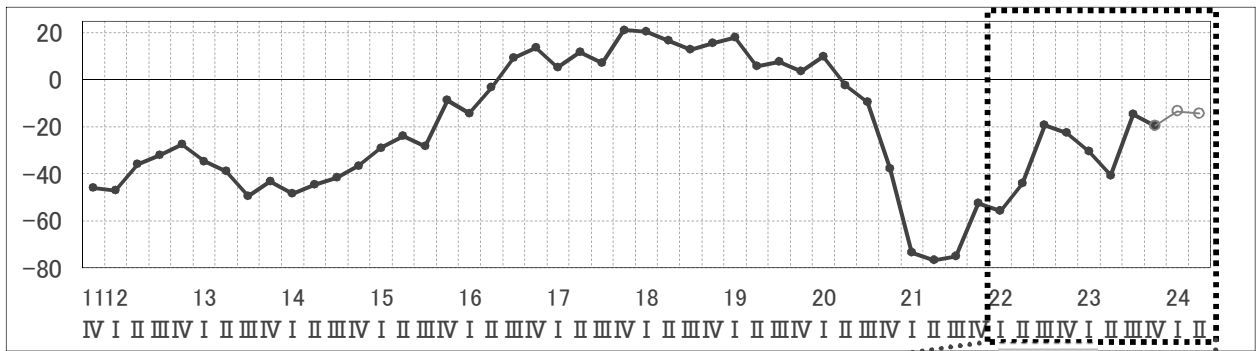
### 【調査の概要】

- ◎調査時期：平成 23 年 11 月 18 日～12 月 6 日
- ◎回 答：273 社（回答率 40.4%）
- ◎対 象：法人会員 676 社（中部 5 県：愛知・岐阜・三重・静岡・長野）

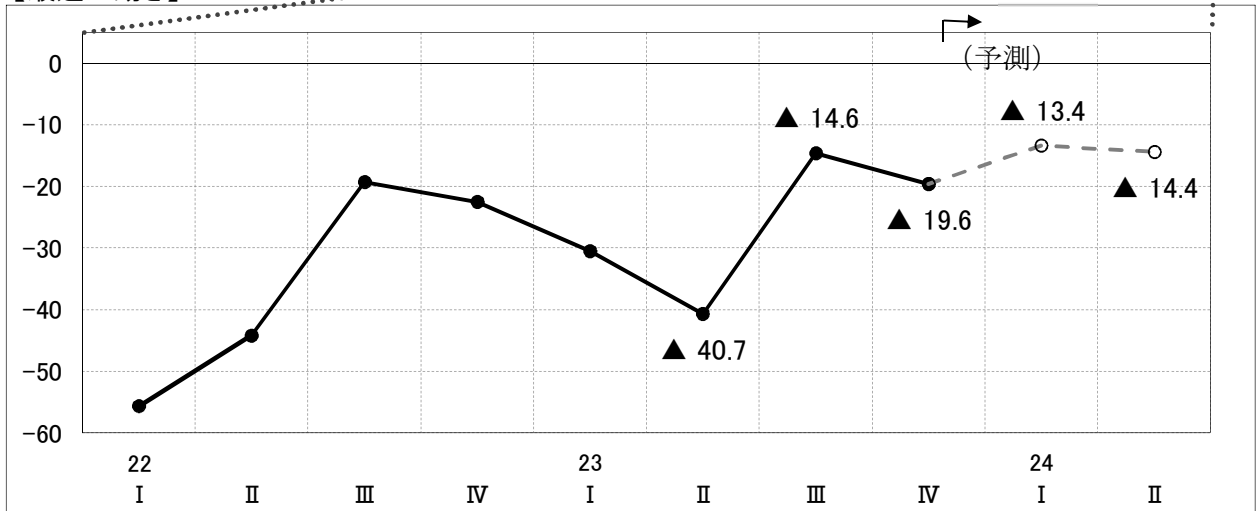


(2)機械設備水準判断(製造業)

[現況判断・見通し:「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] ◎前期の大幅な改善から、悪化(前期比5.0ポイント悪化して▲19.6)に転じた。

[今後] ◎先行きについて、来期は改善するが、4~6月期は再び悪化する予測となっている。

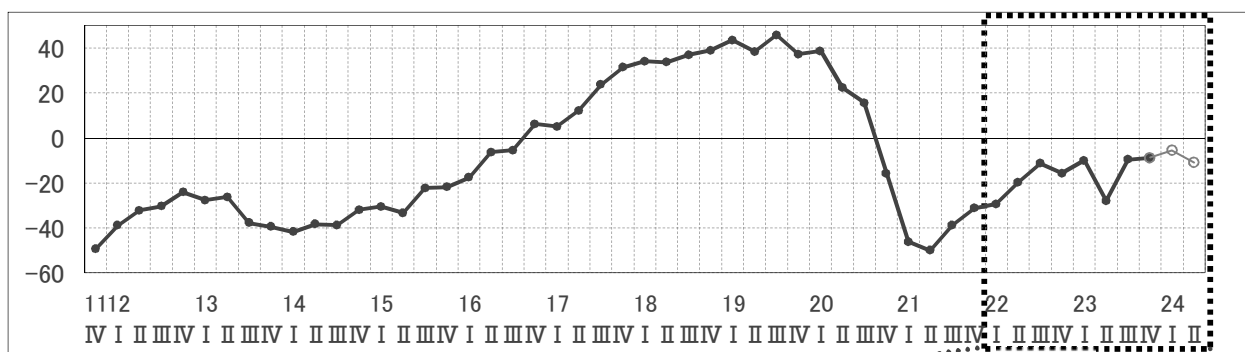
【機械設備水準判断(D. I.)の内訳】

[9月]	1:過剰 19.7%	2:適正 75.2%	3:不足 5.1%	D.I. (不足-過剰) ▲ 14.6	← - 5.0P
[今回]	1:過剰 25.0%	2:適正 69.6%	3:不足 5.4%	D.I. (不足-過剰) ▲ 19.6	

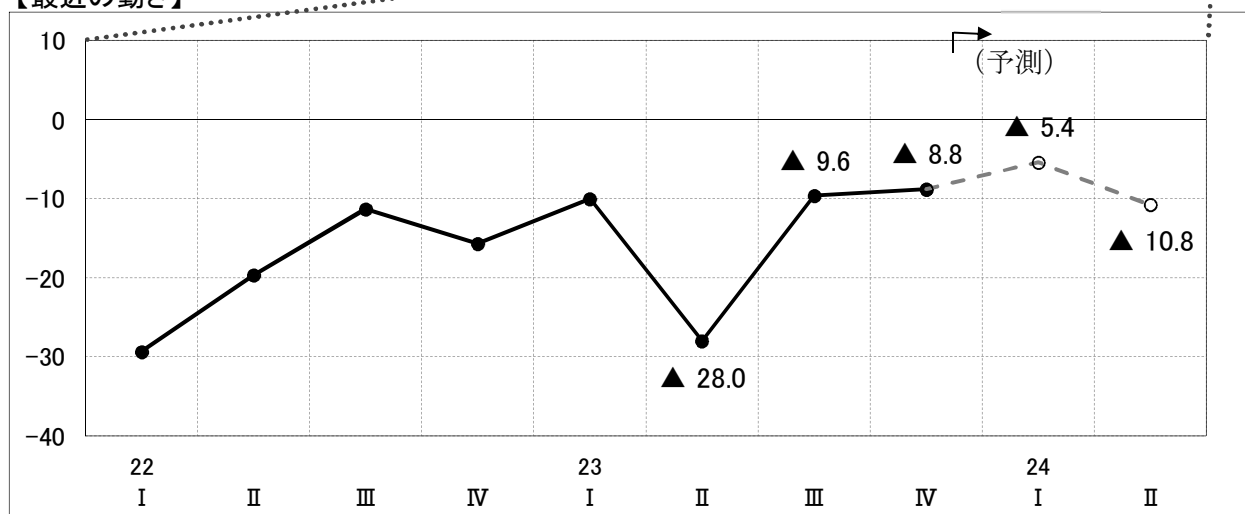
◎「過剰」が増え、「適正」が減少した。

### (3)雇用判断

[現況判断・見通し：「不足」-「過剰」]



#### 【最近の動き】



[現状] ◎前回調査の大幅な改善に引き続き改善(前期比0.8ポイント改善して▲8.8)となった。

[今後] ◎先行きについては、来期までは改善するものの、再来期は一転して悪化の予測となっている。

#### 【雇用判断(D. I.)の内訳】

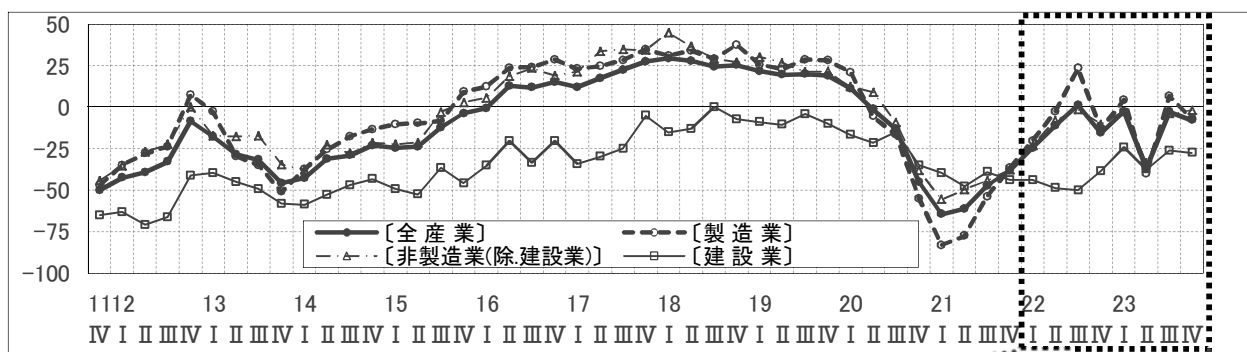
	1 : 過剰	2 : 適正	3 : 不足	D.I. (不足-過剰)
[9月]	19.8%	70.0%	10.2%	▲ 9.6
[今回]	18.8%	71.3%	10.0%	▲ 8.8

+ 0.8P

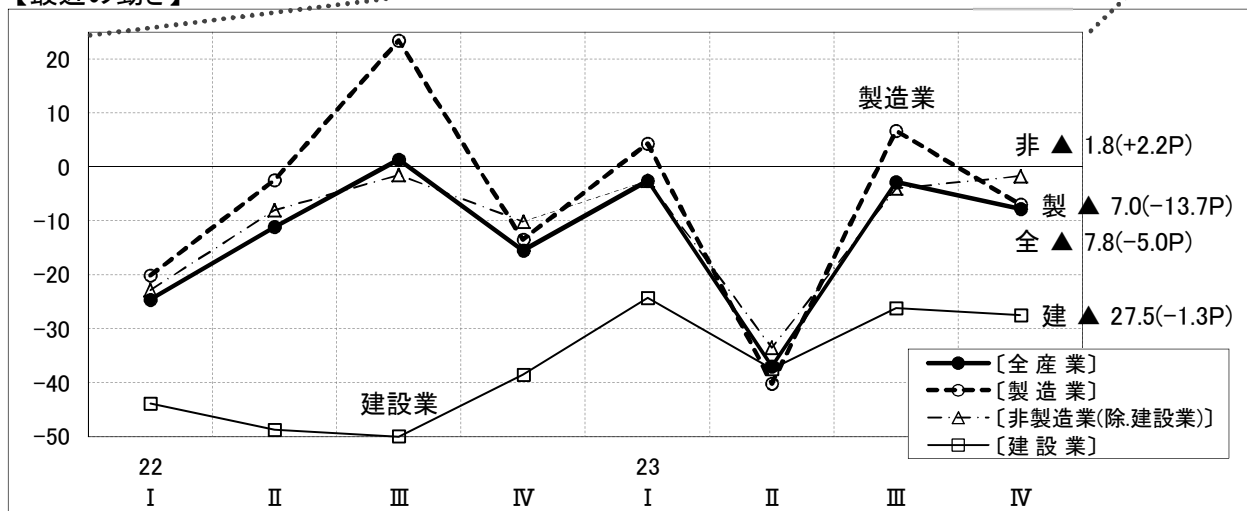
◎「過剰」と「不足」が減少し、「適正」が増加した。

(4)業種別・業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



- ◎製造業は悪化し、プラスからマイナスに転じた。
- ◎非製造業(除. 建設業)は、緩やかながら引き続き改善した。
- ◎建設業は、わずかに悪化した。

【業績判断(D. I.)の内訳】

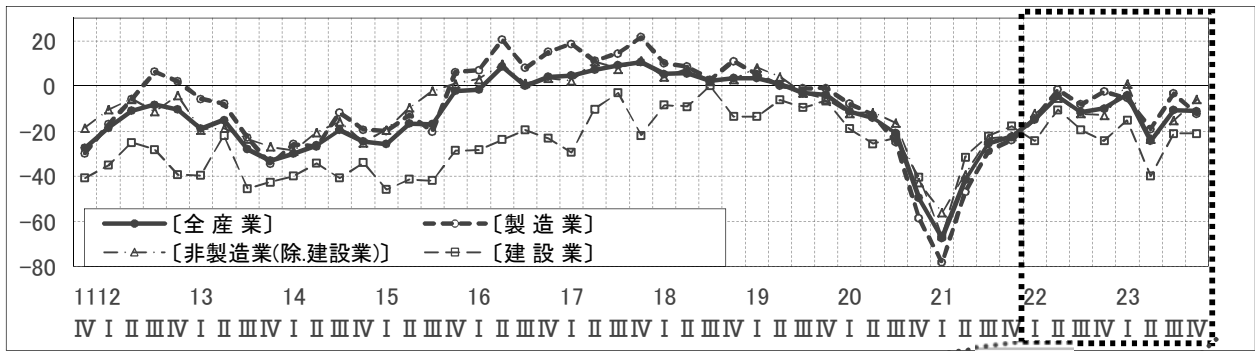
	1:悪い	2:さほど良くない	3:良い	D.I. (良い-悪い)
[9月]	15.6%	71.5%	12.8%	▲ 2.8
[今回]	17.9%	72.0%	10.1%	▲ 7.8

- 5.0P

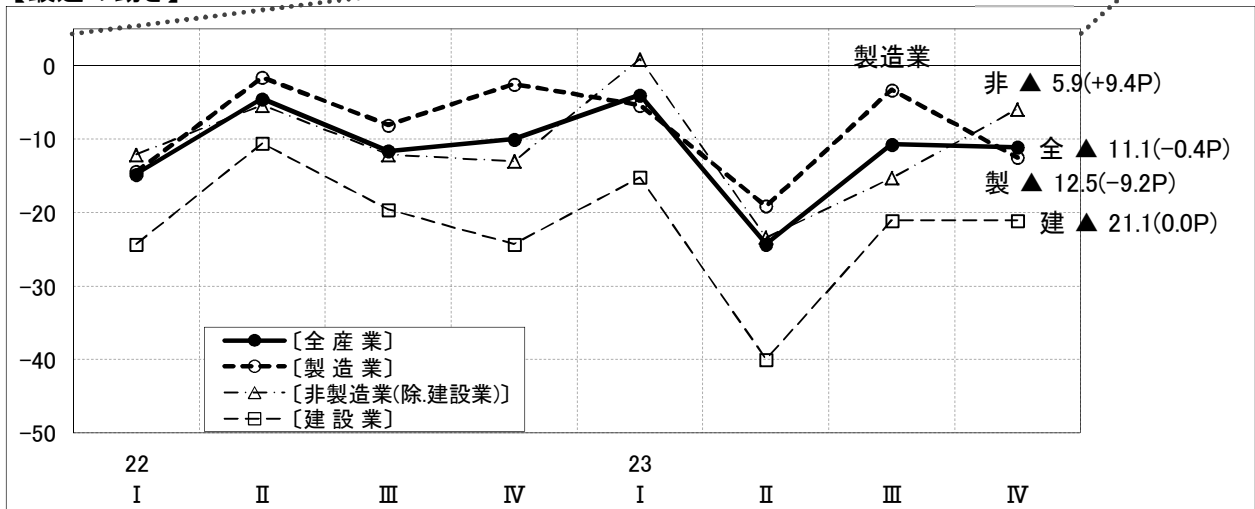
- ◎「良い」が減り、「悪い」が増えた。

(5)業種別・設備投資計画判断

[現況判断:「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



- ◎製造業は悪化した。
- ◎非製造業(除.建設業)は2期続けて改善した。
- ◎建設業は横ばい。

【設備投資計画判断(D. I.)の内訳】

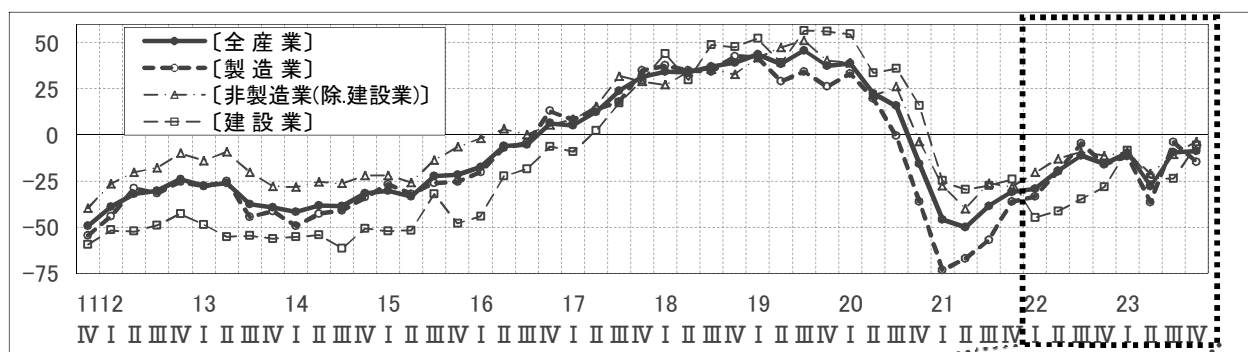
[9月]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I. (積増し-縮小・繰延べ)	▲ 10.7
	14.8%	81.1%	4.1%		
[今回]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I. (積増し-縮小・繰延べ)	▲ 11.1
	15.5%	80.2%	4.4%		

- 0.4P

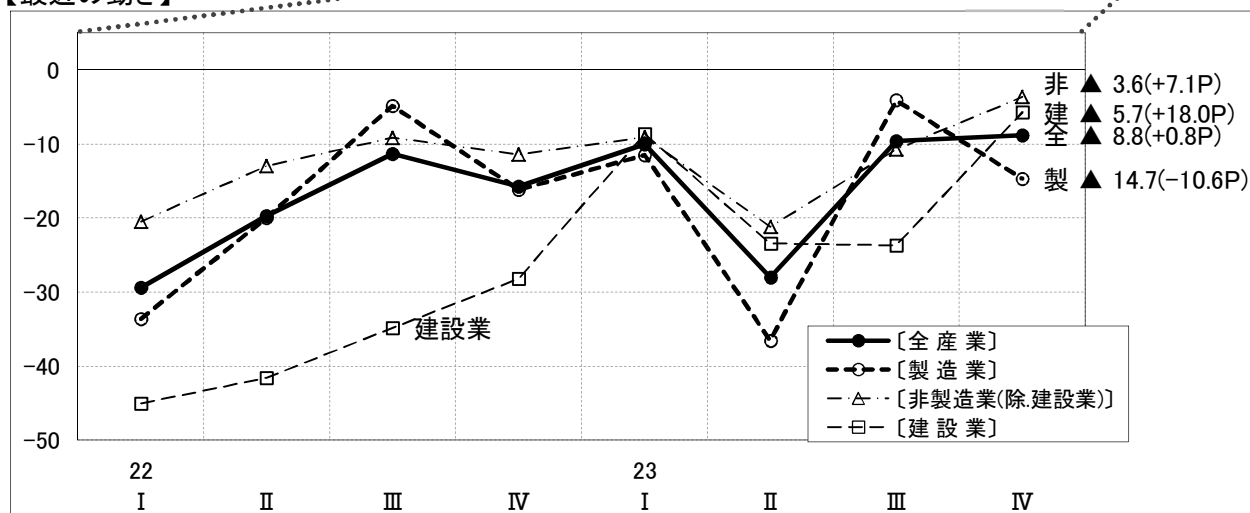
◎「縮小・繰延べ」、「積増し」とも僅かずつ増加した。

## (6)業種別・雇用判断

[現況判断:「不足」-「過剰」]



### 【最近の動き】



◎建設業が大幅に改善した他、非製造業(除.建設業)も改善した。

◎製造業は、前期の大幅改善から一転して、悪化した。

### 【業種別・雇用判断(D. I.)の内訳】

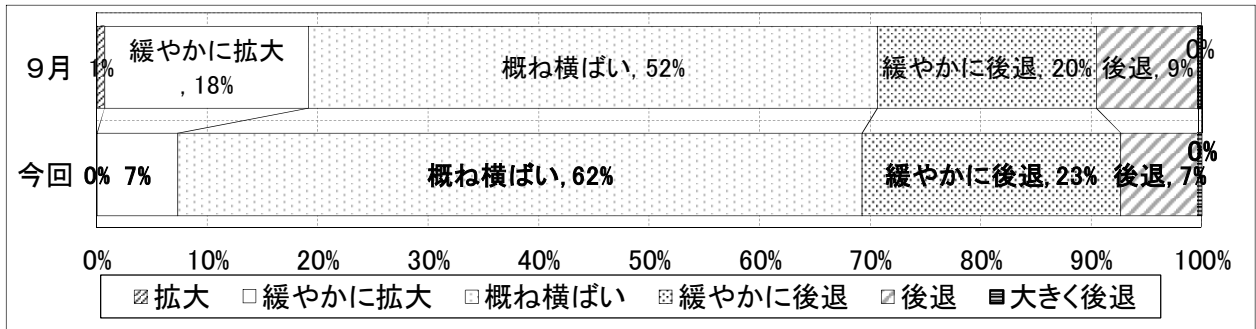
製造業 [9月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	- 10.6P
	17.1%	69.9%	13.0%	▲ 4.1	
[今回]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
	24.3%	66.1%	9.6%	▲ 14.7	
非製造業 [9月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 7.1P
	18.9%	73.0%	8.2%	▲ 10.7	
[今回]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
	13.5%	76.6%	9.9%	▲ 3.6	
建設業 [9月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 18.0P
	31.6%	60.5%	7.9%	▲ 23.7	
[今回]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
	17.1%	71.4%	11.4%	▲ 5.7	

フォーカス①

日本経済の現状認識と経済政策について

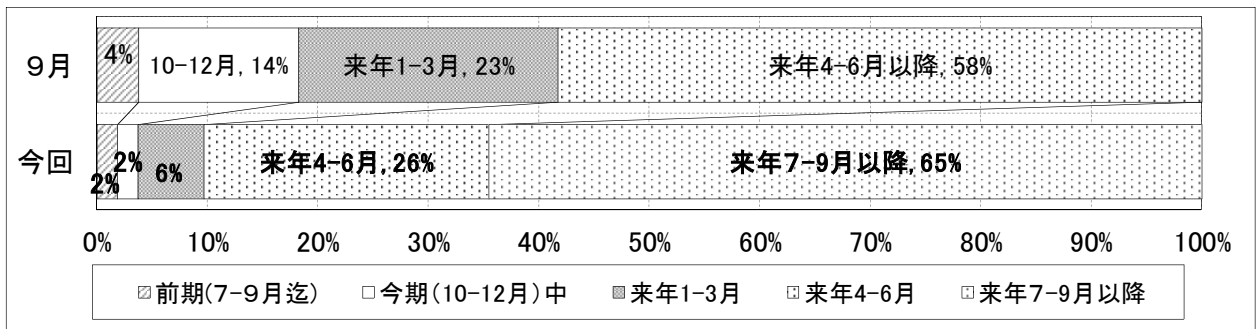
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気現状について



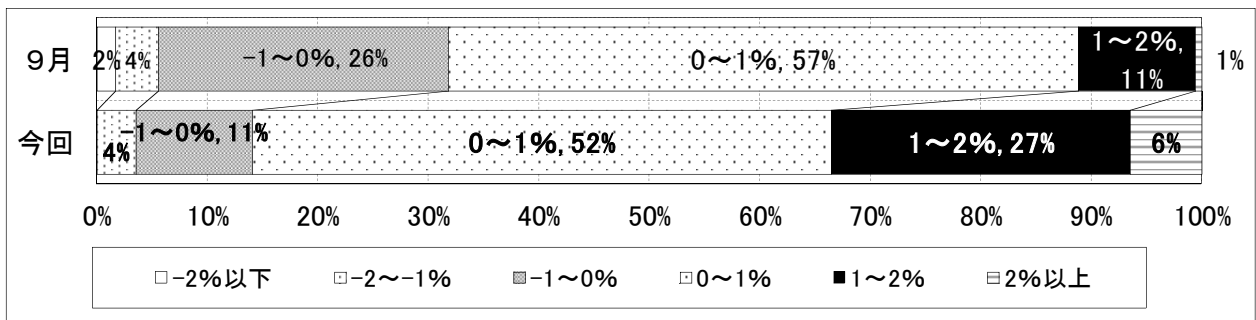
◎「概ね横ばい」および「緩やかに後退」が増加し、「緩やかに拡大」が減少した。

(2) 景気回復を実感できる時期について



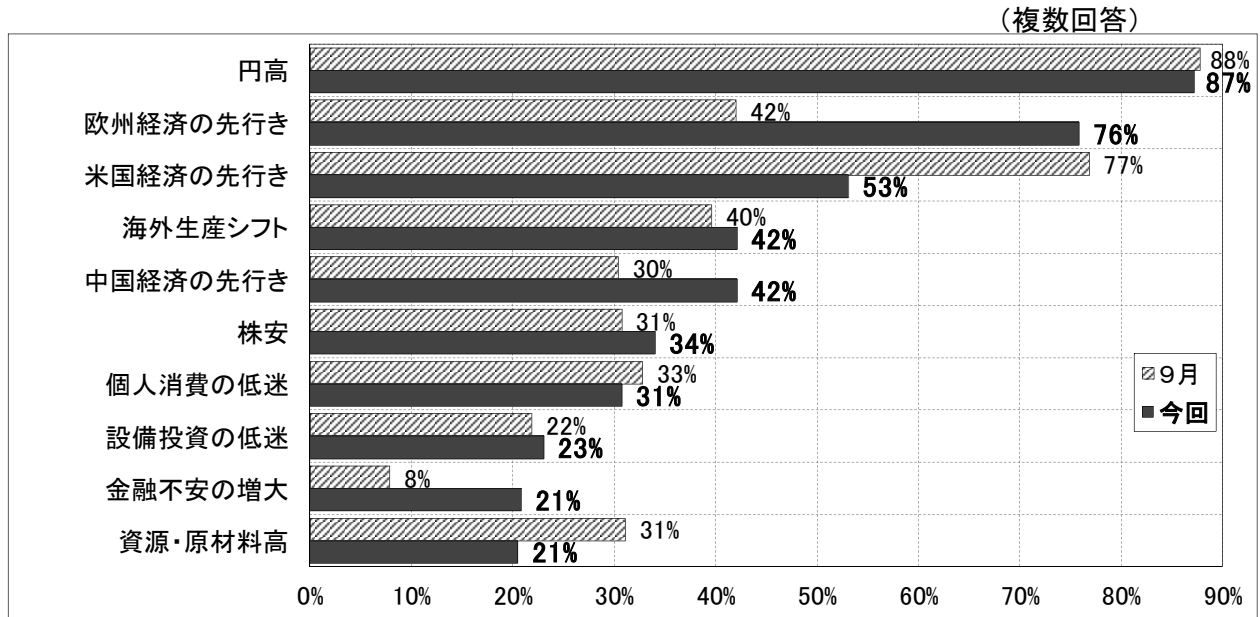
◎回復を実感できるまでには相当の時間を要する見込み。

(3) 平成23年度の経済成長率(GDP)見通しについて



## 2. 景気の先行き不安要因と経済政策への期待について

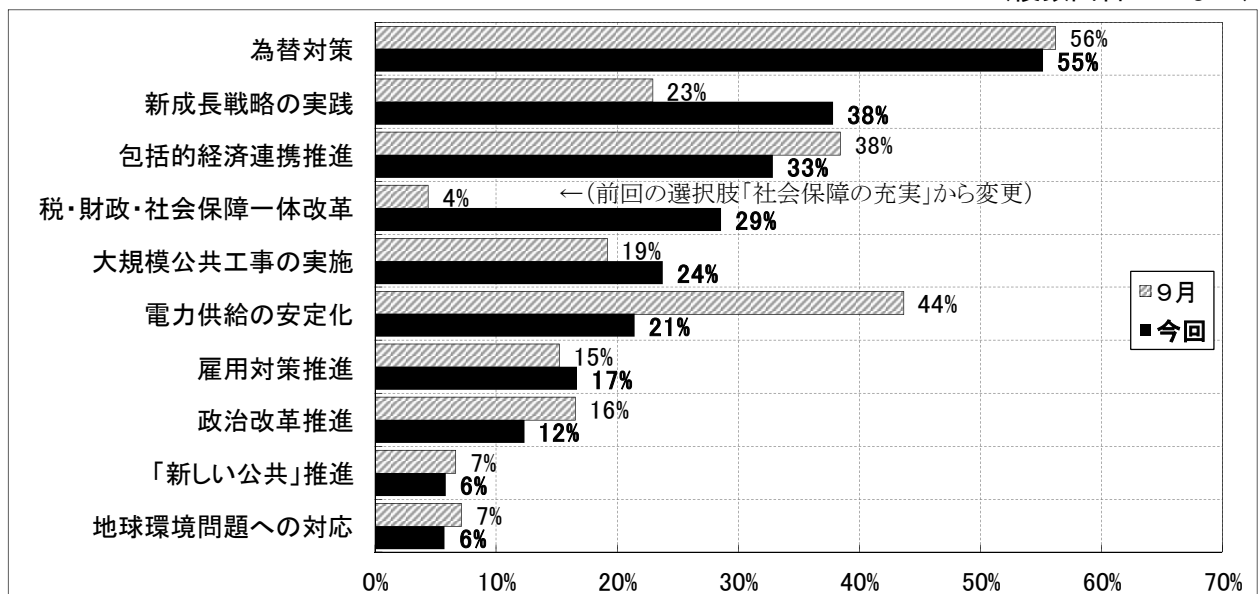
### (1) 景気の先行き不安要因



- ◎「円高」への懸念は、前回に引き続き強い。  
 「欧州経済の先行き」への懸念が前回調査に比較して大きく増加した。  
 「米国経済の先行き」については減少した。

### (2) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて

(複数回答:3つまで)

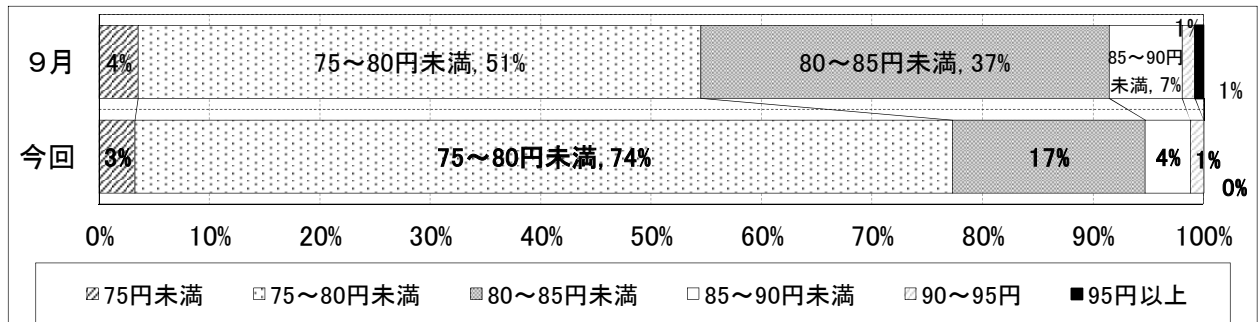


- ◎「為替対策」を求める声が多。 「新成長戦略の実践」への期待が増え、「電力供給の安定化」は減少した。

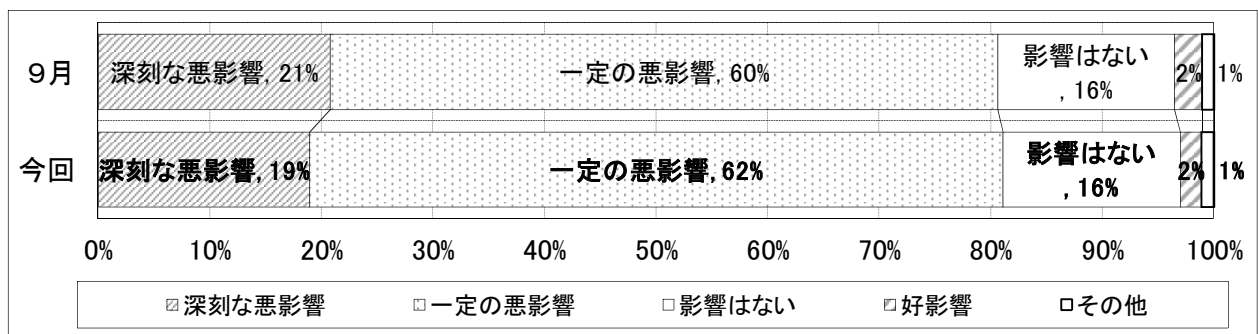
フォーカス②

円高の影響について

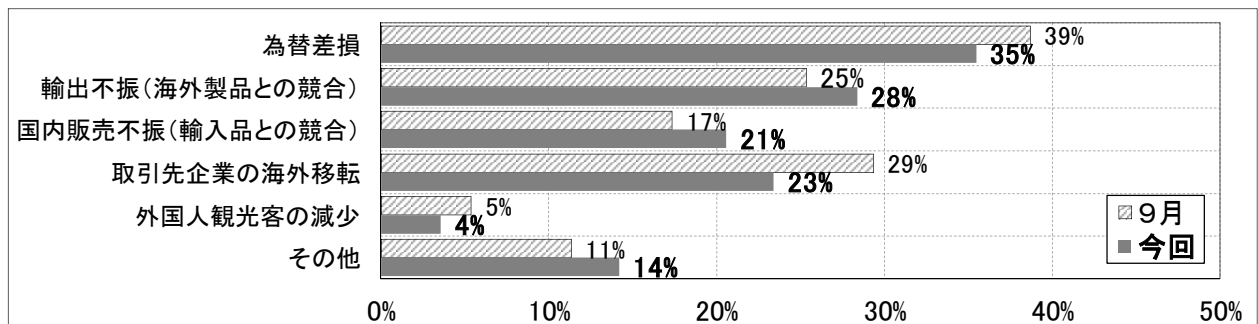
(1)23年度下期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



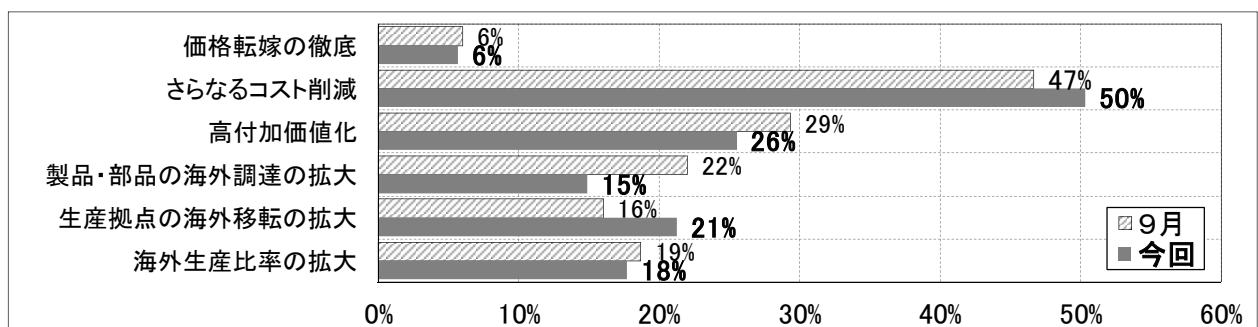
(2)円高による影響について



(3)(円高の悪影響「あり」の企業における)悪影響の主たる要因について (複数回答)

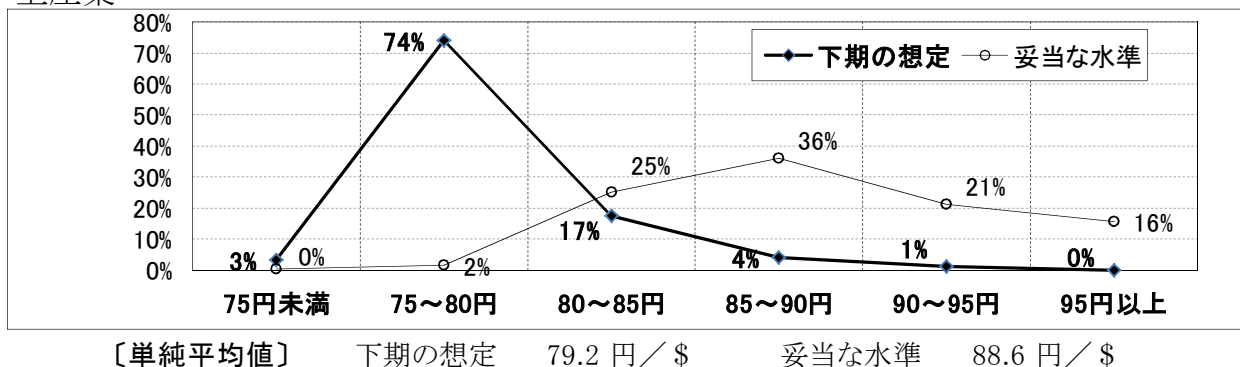


(4)(円高の悪影響「あり」の企業における)円高への対応について (複数回答)

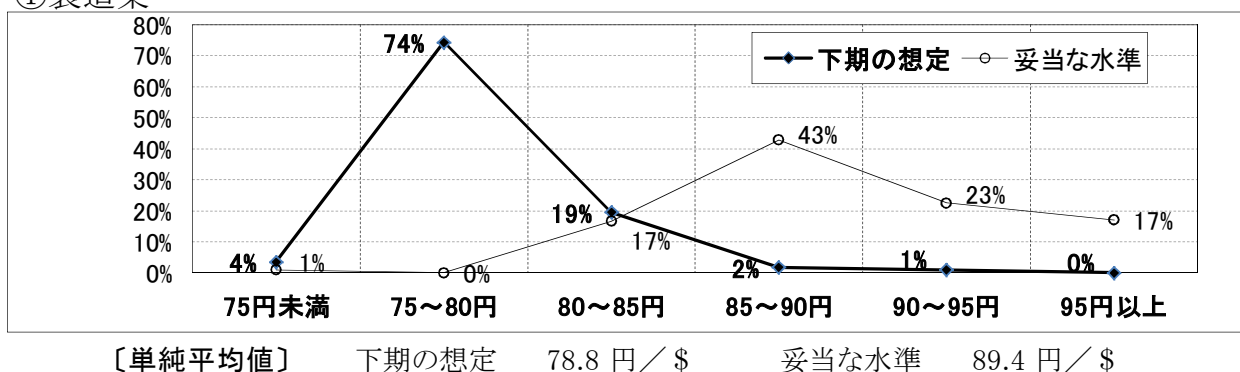


(5)為替レートについて（妥当な水準と下期の想定の比較）

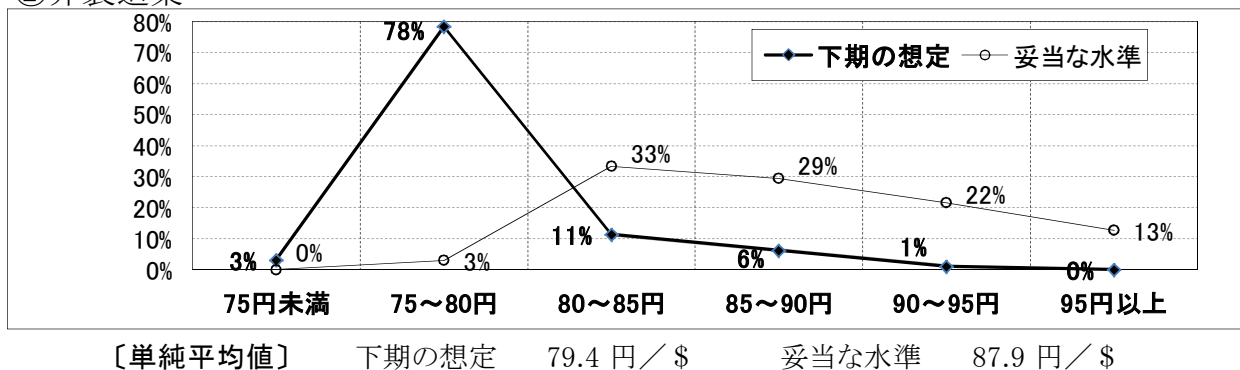
全産業



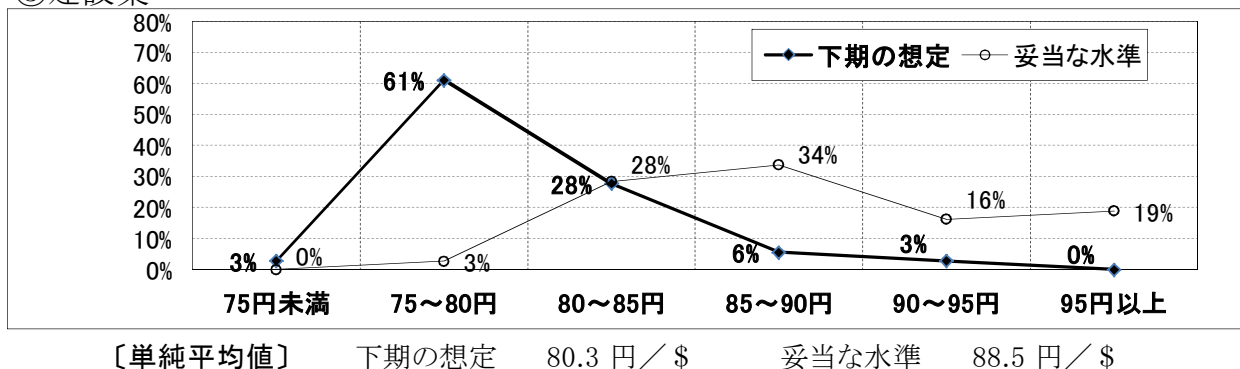
①製造業



②非製造業



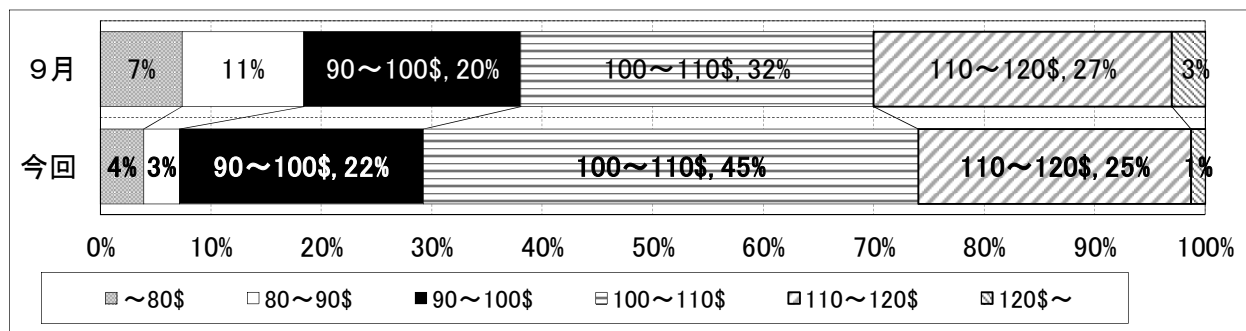
③建設業



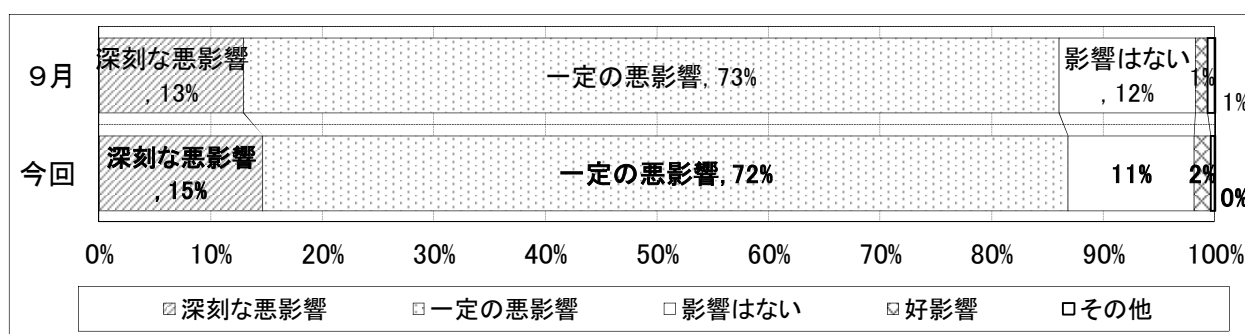
フォーカス③

原油等資源価格の高騰による影響について

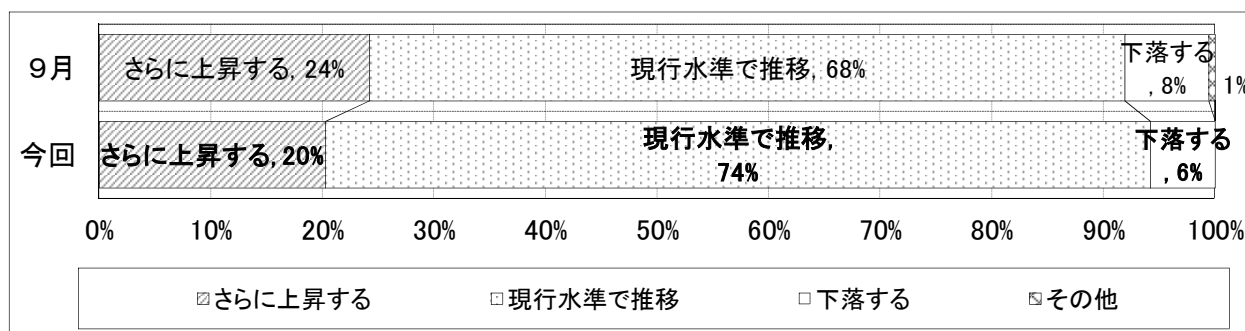
(1)23年度下期の業績予想の前提 原油価格〔通関(CIF)〕



(2)原油等資源価格の高騰による影響について

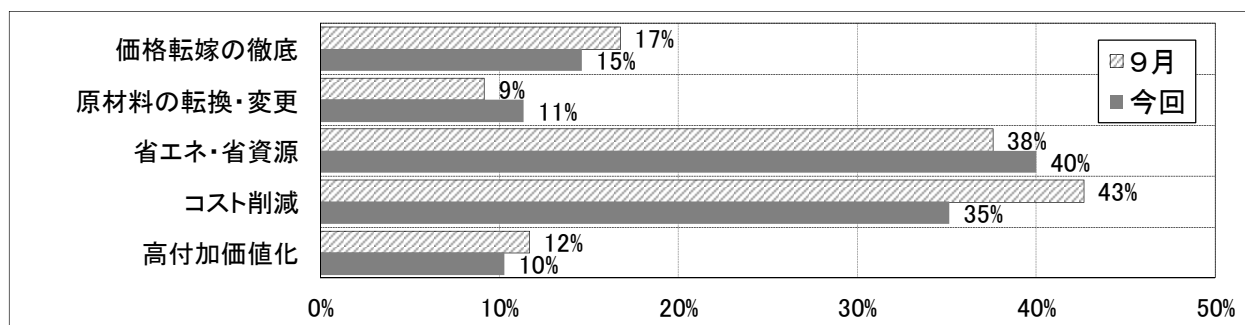


(3)原油等資源価格の当面の動向について



(4)原油等資源価格高騰への対応について

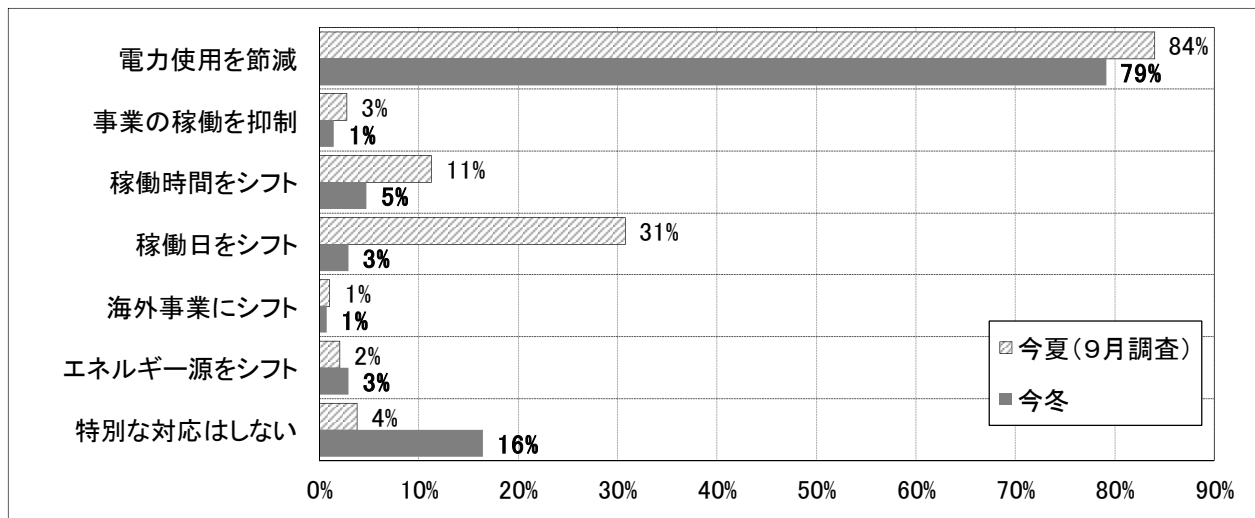
(複数回答)



## フォーカス④ 電力供給不足への対応について

(1)電力供給不足への対応

(複数回答)

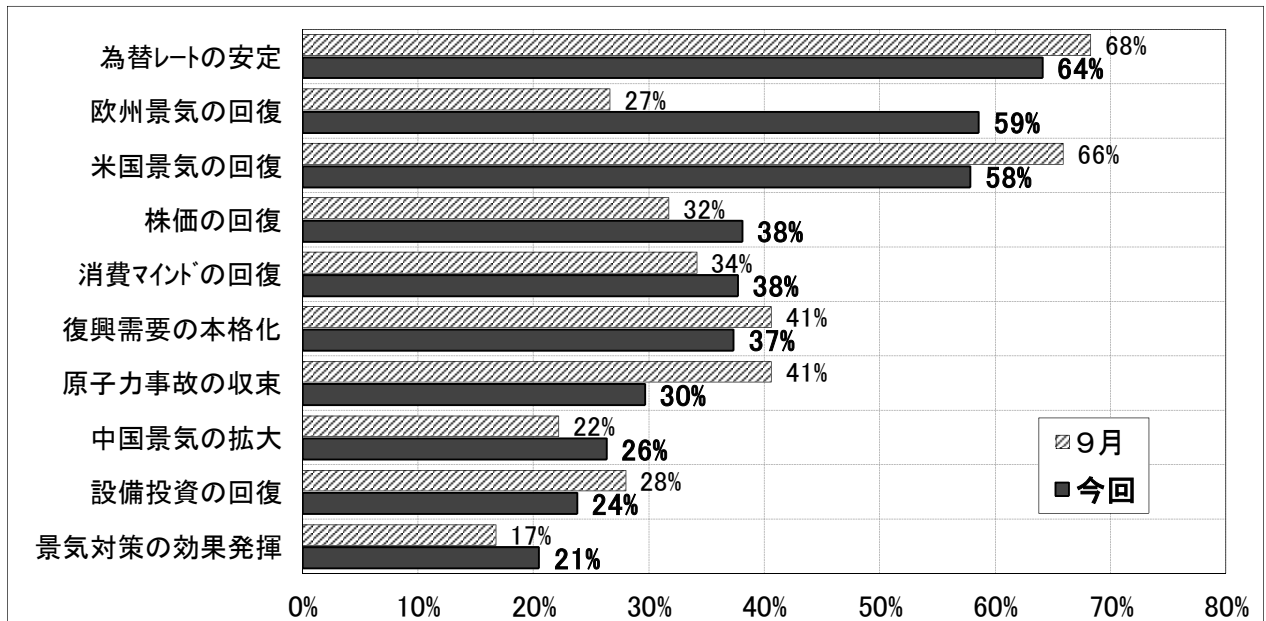


◎事業の稼働を抑制する企業は少数にとどまっている。

## 景気回復の芽として期待すること

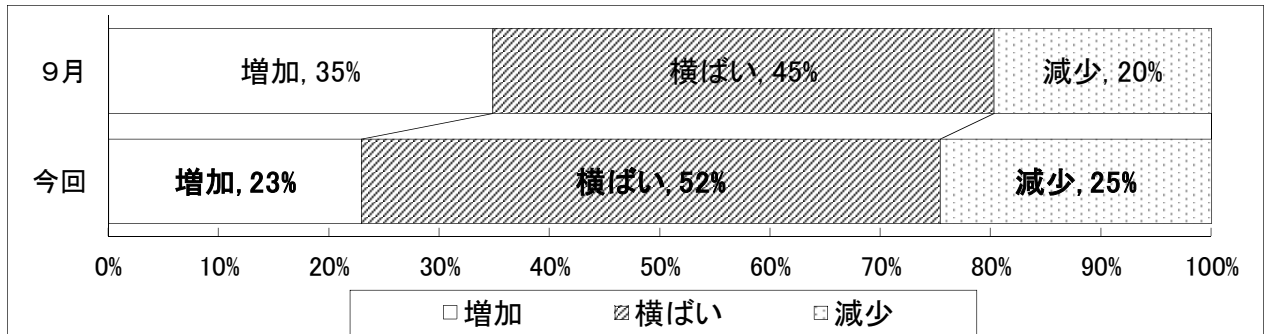
(1)景気回復の芽として期待すること

(複数回答)

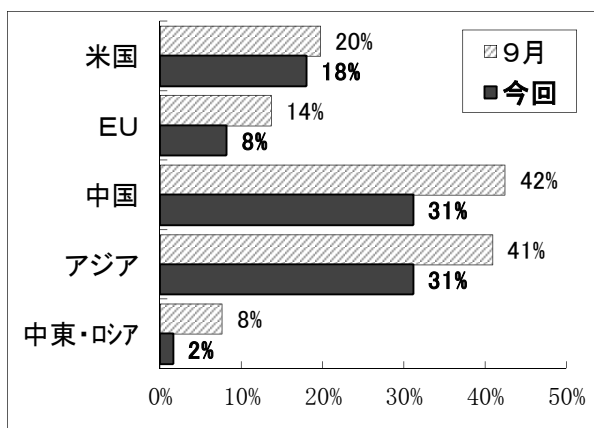


◎「為替レートの安定」と「欧州景気の回復」、「米国景気の回復」の3つに対する期待が突出している。

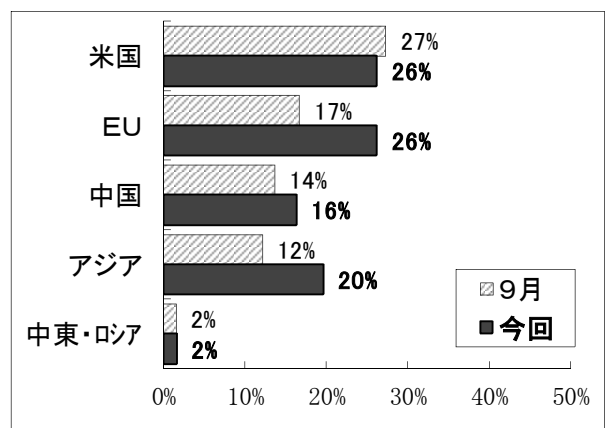
(2)(輸出をされている企業の方へ) 貴社の輸出の増減について



(3)輸出の増加地域



(4)輸出の減少地域



◎EU、中国、アジアで、輸出が減少傾向を強めた。